

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	FMCグループホーム
(ユニット名)	4階 ユニット
所在地 (県・市町村名)	大阪府寝屋川市本町16-5
記入者名 (介護支援専門員)	村井 和美
記入日	平成 20年 9月 3日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症高齢者であっても「人間として、健康で・明るく・幸せに生きる権利がある。」この基本を遵守し「地域に密着した小集団での生活共同体の生活づくりの中で、幸せ探しを支援する。」これが理念です。また、一方で職員用に介護サービスの「心得・理念」を作り、職員の意識レベルを上げることを行なっています。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「FMCの心得・理念」の十項目を作り上げ、毎日の朝礼時に参加者全員で唱和をし、日々の業務に取り組んでいます。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	事務所内に介護サービスの「心得・理念」を掲示し、いつでも分かりやすく説明が出来るようにしている。これからもご家族や地域の方々への信頼を得てサービス内容を理解してもらえよう取り組んでいきます。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の住民には気軽に挨拶をし、玄関には花壇・ベンチを置いて、開放された「庭」と「玄関」の雰囲気を作っています。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元地域の自治会長や老人会の会長をはじめ、入居者様が散歩すれば近隣の方々も気楽に挨拶をして頂ける関係が出来ています。また、地域で行なわれる各種行事(夏祭りや餅つき大会など)の折には招待をされ、それらの行事にも積極的に参加をしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	過去に寝屋川市福祉公社が主催する「認知症学習会」の会場として解放し、代表が認知症介護の講演をしたり、地元中学校の生徒からの要望で「高齢者の介護体験学習」の実習会場として提供するなど、地域貢献活動をしています。今後も様々な地域貢献活動に取り組んでいきます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価表を各ユニットごとに掲示して職員全員で評価の意義と問題点などを認識し評価を生かした活動を行なっています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を、地元地域の自治会長・老人会会長、行政職員、入居者様のご家族、入居者様、ケアマネジャー、施設代表など、計15名で会議を開催し様々な意見交換をし、その内容を調整しサービス向上策としています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政(高齢介護室・福祉公社など)の担当官との関係を密にし、関係所管の指導のもと、出来る限りの向上策に取り組んでいます。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	過去に入居者様が成年後見人制度を利用されておられる方がおられたので実際的な学習が出来ました。が、今後の為にも介護職員に更に学ぶ機会(講演会や研修など)があれば参加を誘導したいと考えています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入所される前にそのようなことがあったのでは?と想像ができる入居者様は居られますが、今は安心して生活をされています。FMCグループホームでは虐待は絶対にありません。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族には十分な説明と、文章(重要事項説明書&入居契約書など)により理解していただき、納得していただいています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様から直接的にも間接的にもクレームや介護スタッフに対する苦情やそれらの意見がありませんので、それを反映することはありませんでした。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時にはご家族からの問い合わせがある前にコミュニケーションを持ち報告し、信頼関係を築いています。受診後の報告は出来るだけ速やかに当日の夜に電話で報告しています。また、何か特異事項があれば随時電話で報告をさせていただきます。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各フロアごとに自由にポスティングができる意見箱を設置しています。が、今までクレームや介護スタッフに対する意見や苦情などありませんでしたので、それらを反映することはありませんでした。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第2金曜日に定例会議を設けて、意見や提案があれば報告をしています。また、何か問題点など意見があれば、その都度、随時に会議を設けています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者様の要望を第一に対応していますが、ご家族からの要望があれば、その折々において柔軟な対応を行っています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職希望者へは出来る限り説得し本人の気持ちを尊重した対応をしています。また、フロア間の勤務移動については、入居者様にダメージが無いように最少人数で移動を行なうように配慮しています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の体制として、研修や講習の案内通知が来たら掲示板に貼り出し、希望すれば誰でもが会社の経費で参加が出来るようにしています。職員は希望すれば様々な研修を受けることが可能です。また、役職者にはスキルアップの研修に積極的に参加の誘導を行なっています。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	寝屋川市のケアマネ会などへの参加は出来る限り参加を促しています。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	進んで話を聞いたりするなど気配りには気を使っています。また、希望休を月に5日設け、要望通りに休めるようにして、それぞれがリフレッシュ出来ていると思います。会食や飲み会なども催しています。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各自の資質の問題もありますが、「新しい仕事を与えたり」など、出来る限りそのように努めています。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人が話されることを聞くこと。出来る限りそのようにしています。が、一方でご家族からの情報も聞く機会を設けるようにしています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	介護の方針を定めるためにも情報を聞くこと。しっかりと聞かせていただく姿勢が信頼を生むと思うので、様々なことを受け止める努力をしています。ご本人様の生い立ちから現在に到るまでの生活圏のお話などを聞くことの大切さを認識しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何を求めておられるか、を察知することが介護の第一歩だと認識しています。それで知りえたことへの支援を実行しています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	FMCグループホームへの入所は馴染みの延長です。まずは見学、次に昼食体験、その後体験入居、そして双方納得の上で、馴染んでから入居契約となります。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・入居者様本位の介護を実践しています。 ・入居者様と介護スタッフが日常生活の中で「喜」と「楽」は容易に共有は出来ませんが、「怒」と「哀」と共有するのは、なかなか難しいところであると思います。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	お誕生日会や季節の行事など施設内行事に来ていただいたり、郊外で行なう行事(花見や行楽地行)にも参加して頂いたりして、ご本人との関係を深めて頂く機会を多く設けています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	希望があれば車で自宅に行ったり、ご家族が入院中あれば、その病院へのお見舞いをご一緒したり、ご本人さんとご家族との関係がより密になるような支援をしています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り支援していますが、馴染みの場所と、今の状況の差異がありすぎ、関係保持が難しい場合もあります。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	それぞれの生活環境や生き方の違いから入居者様同士が上手く関われない方もおられます。現実的にも高齢者のなかにはかみ合わせ難い方も居られます。が、食堂の配置やレクレーション行事への参加時に相互に関わりが持てるような雰囲気作りを工夫をしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	先日も契約が終了した家族様がお菓子をもって入居者様に会いに来てくださいました。また、年賀状や暑中見舞いが届いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	重度の入居者様も多く、個々の思いや要望を個人から入手困難な方もおられますが、個別ケアは実践できています。ケア中に入居者様の思いや要望を知る機会もあります。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のご家族との面談時、或いは入居前に担当しておられた居宅介護支援事業所の担当者からなど、多くの方々からの情報収集をしています。その方々の過去の生活歴やライフスタイルなど、その方々の生活歴を尊重し、それらの把握に努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	沢山の情報収集から見出した入居者様の個々の状況に応じた介護支援をするように徹底しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	過去の生活歴や個人の趣味などをはじめご家族様からの情報を集約して、また、ご本人様の心身状態を加味した上で、入居者や家人を交えて介護計画を作成しています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に一度のモニタリングを行いながら、こまめには家人に報告・相談しつつ介護計画の見直しをしています。また、退院時やADLの低下に伴いサービス計画の内容変更を行ったりしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その都度、介護記録を記入し、全スタッフが目を通して情報の共有化に努め、介護計画の見直しに役立てています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者様が身体機能低下になり「グループホーム」対象外となってもターミナルケア(終末介護)の受け入れをしています。FMCグループホームはグループホームの域を越えた医療設備を整えています。また、1階には整骨院を、2階にはスポーツジムを併設しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月に3回ボランティアさん(歌体操・音楽療法・傾聴など)が来所され、歌を歌うことや、楽器を演奏することなどを実践しています。また、公共施設(図書館)の利用もさせて頂いています。更に、年に一度消防機関との協力にて避難訓練なども実施しています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネ会には積極的に参加していますが、我がホームの入居者様が他の施設などでサービスを利用したことはありません。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働はありませんが、地域包括支援センターが主催する会議などには積極的に参加をしています。今後は、地域包括支援センターとの協働を積極的にしていきたいと思っています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	二週間に一度の訪問医療・週に一度の訪問看護・訪問歯科などが実施され、いつでも相談できる体制が確保されています。24時間医療連携体制が確保されています。健康状態や病状報告なども医師を交えてご家族に説明をする機会を設けています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	FMCグループホームの心得・理念にもある「尊敬の意」を持って接するようにしています。また、個人情報については、入社時に全従業員が「守秘義務に関する宣誓書」に自署・捺印をしています。職員間においても、各自で十分な配慮ができています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員の決めつけた思いを押しつけない介護職員はいますので、入居者様個々のその人らしさや思いなどが「表出」できています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	FMCグループホームの主役はあくまで入居者様であること。全ては入居者様を第一に考えて介護支援することを介護スタッフに徹底して教育されています。お一人おひとりのペースにあった介護支援を実践しています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行きつけの美容院や理髪店に定期的に行けるように支援しています。また、化粧などのおしゃれをしていただける入居者様もおられます。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事作りをすることは出来ませんが、入居者様とスタッフと同じ食事を一緒に楽しんで食べています。食事の後片付けについては、食器を拭く係りの人、食器を片付ける人など、入居者様と職員が一緒になって協働しています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	特に食欲が低下している入居者様へは、おやつなどで出来る限り好みの食べものを摂取していただけるように支援しています。 飲酒・喫煙者は居られません。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者様お一人おひとりの排泄パターンを把握して、自立に向けた支援を心がけています。万が一失禁をされている場合には、不快感がないように可及的速やかに交換をしています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後にはほぼ毎日おこなっていますが、入居者の意見・希望を聞きながら対応しています。無理強いはいませんが、出来るだけ均等に入浴をして頂くようにお声かけをして入浴をして頂いています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の心身状態を把握してゆっくと安心して眠れるように室温などの就寝環境には気配りをしています。又、安眠できるように日中は出来る限り活動をして頂き、昼夜逆転がないような配慮もしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	四季の行事、誕生日会などをおこなっています。又、外出も積極的におこなっており、外の空気をできるだけたくさん吸っていただいています。土いじりが好きな入居者様にはベランダでプランター菜園を、手編みが趣味であった方には手編みセットをプレゼントをするなど趣味にあった支援も行なっています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭出納帳をつくり金銭の管理は職員がおこなっていますが、買い物に行かれるときには、現金を入居者様にお渡しする場合があります。理容室や美容室に行く場合はお金を自分で持って頂き、自身で支払をして頂く場合があります。が、殆どの場合、職員がお金を預かっています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	寝たきりの入居者様以外は、不公平が無いように、ドライブを希望される方にはドライブに、散歩を希望される入居者様には散歩に行ってもらっています。買い物にご一緒して頂く場合もあります。最近には行っていませんが、カラオケや回転すしにも行ってました。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者様から行きたい場所の要望はありませんが、車で1時間程度の場所に遠出をする機会を年に4回程度は設けています。その節にご家族様もお誘いし同行して頂いたり、現地に来て頂いたりの場合もあります。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	それを望まれる家族様の要望や、それが出来る方はそのように支援しています。要望があれば、或いは、繋ってきた電話は自由に使って頂いています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族のご面会は自由にできるような状況や雰囲気作りがなされています。お部屋でゆったり過ごされる方や、皆様とワイワイの方など、その方々に応じた居心地の良さを提供しています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	FMCグループホームは身体拘束をしないケアを徹底しています。職員が入れ替わっても、その考え方に相違が無いように伝授しています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各フロアと個々のお部屋には鍵を掛けていませんが、玄関やエレベーターには事故防止のために常時カギが掛けられています。又、医療機器のある部屋・包丁のある引出・薬の保管庫等は、ご家族に十分な説明をして、その了解を得たうえで鍵をかけています。これからも出来る限り見守りを強化し、鍵をかけないケアに取り組めます。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	全職員がそれらのことを十分に配慮が出来た介護支援をしています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	そのことに対する規約や規則はないが、個々の危険を予防しながら、そのような取り組みをしています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の身体・精神状況を把握した介護を日々実践していますが、その隙間で事故やひやりはっと事例があった場合には「ひやり・はっと報告書、事故報告書など」を書いてもらい、なぜそのようになったのかなどの分析をして、このようなことが再度発生しないように取り組んでいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	常勤・非常勤の関係なく、介護スタッフ全員が緊急時対応が出来るようにスタッフ会議や研修を利用しての話し合いなどで再確認をしています。また、緊急時マニュアルを各フロアに掲示しています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時マニュアルを作成し、常に確認の出来る場所に掲示しています。スタッフ会議や研修時にもそのことを再確認しています。また、定期的な避難訓練、消防訓練(1年に一回は消防署員に来所をお願いし大規模な消防訓練を実施しています。)を実施しています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについては、先ず、入居契約時にご家族に十分に話をして理解して頂いています。又、面会時に身体状況を知って貰い、特にADLの低下が顕著な時には、今後の予測を見据えたリスクについて説明を行ない、介護スタッフ間でもその対策を話し合っています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常的に血圧や体温などの計測を実施し、病気に関する予防体制づくりを徹底しています。異変が発生した場合には、その症状等の情報をスタッフ全員に速やかに伝達し、すぐに医師・看護師に報告し、対応していただいています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は看護師が行なっていますが、服薬の実施や支援などは介護スタッフが確実にこなしています。服薬内容を示した保管箱で個別に保管し、常に確認が出来るようにしています。服薬介助時は氏名・日時・などに問題が無いように再確認をしながら服薬支援を行なっています。症状の変化はその都度毎に看護師に報告し、その状況を確認した後に看護		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘症の方にはバナナを食して頂いたり、植物繊維室のある野菜を食して頂いたりヨーグルトを食して頂いたりしています。又、リハビリ体操をして頂いたりを日常的に行なっています。それでも改善されない場合には、医師・看護師に報告し内服薬・浣腸・排便などで対応して頂いています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後と就寝前に口腔ケア(うがいと歯磨き)をおこなっています。が、更に、必要な場合には、週に一度の歯科往診時に歯科衛生士さんに依頼し口腔ケアをして頂いています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては管理栄養士が献立を作成しています。食事摂取量を各食事毎に記録しています。又、飲物(水分補給分)の量も日常的に管理しています。が、摂取量の少ない方については、果物やお菓子などの副食で代用して頂いたり、エンシュアを食して頂いたりしています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の予防の勉強会や対応の方法論などは日常的に行なっています。過去に「MRSA」に感染された方がおられましたが、他への感染を防ぐことが出来ました。その後、面会者へも入室の際にはアルコール(ヒビスコール)での手指消毒をして頂くなどの対策をとり、感染予防に努めています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は毎夜間に消毒を行なうなど徹底して衛生管理を実施しています。生野菜などの洗浄も確実に行なっています。食材管理については、食材の業者に「新鮮で安全な食材」を提供するように徹底した申し入れをしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入居者様で園芸が好きな方がおられ、その方がプランターに沢山の草花を栽培され、それを玄関に飾っています。また、散歩時に休憩をする為のベンチを置いて玄関廻りは花壇の華やかな雰囲気作りがなされています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的には落ち着いた雰囲気、玄関には季節感をだすための装飾をしたり、全館に有線放送機器を設置しフローアごとに異なる音楽を流したりして、安全かつ使いやすいように明るい安心の出来るグループホームのイメージを創っています。また、壁面には四季の移り変わりが実感出来るような飾り付けをするなどの工夫もしています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースのリビングには大型のプラズマTVやソファなどを配置し、入居者様それぞれが思い思いにくつろげる空間が確保されています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅から使い慣れた家具(タンスや鏡台など)やテレビなどが持ち込まれて自室に近いようにしています。又、見慣れたもの(壁掛けや額、置物など)を飾っていただき居心地の良いお部屋で過ごしていただける工夫をしています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室に臭い防止のためのオゾン発生装置をつけたり、各室別々にコントロールの出来るエアコンや換気扇を設備し、入居者様の状況に応じた配慮をしています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体を高齢者のための施設になるように十分に配慮し工夫しています。例えば、手すりの等の配置が十分で、便座の上下を電動で行ない、立ち座り動作時の補助を介護スタッフが楽に出来る工夫など、細部にわたって工夫がなされています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口には名前が表示されています。また、トイレなどは目印が作られているなど、混乱や失敗を防ぐための環境整備を充分にしています。また、一人ひとりの能力を把握し、過剰介護にならないように心がけています。入居者になるべく自分で行なえるように声かけに工夫をしています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ある入居者様は朝の運動に散歩(3000歩)をベランダでしています。また、プランターを使い菜園にしておられる方も居られます。が、通常は洗濯物干場になっています。それを入居者様に手伝っていただいたりしています。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・5階建ての福祉複合ビル(1階には整骨院、2階にはスポーツジム、3・4・5階高齢者グループホーム)内で、整骨院やスポーツジムに通いながらのびのびと過ごされています。一方、訪問医療、訪問看護、訪問歯科が実施され、いつでも相談のできる体制が確保されています。※24時間医療連携体制が確保されています。